日日	一七年一月	毎日句会みのる選・二〇一七年一月二二日	せ い じ	奏で初む水音枯蘆隠れかな
			豆狸	艶めける歌留多クイーンの赤襷
天	満	センター試験知ってをるやに寒波来る	ひかり	鴨の陣水脈うち重ねつつ進む
香	明	太陽光パネルが占むる枯野かな	宏虎	校庭の隅にぽつんと雪だるま
つき	ਰ ਰ	松原の景を烟らすどんどかな		二〇一七年一月一七日
さこ	あっ	万両の赤が顔出す雪解かな	うつぎ	深雪晴しるき稜線延べにけり
q	菜	風花にしばし華やぐ狭庭かな	は く 子	雪野原展け歓声バスツアー
つき	なっ	ジャンパーの胸元嬰のつむじ見ゆ	菜々	冬帽子脱ぎて黙祷阪神忌
か 子	た	護摩焚の火屑をかぶり初大師	た か 子	阪神忌紙灯籠が広場占む
ゅ	ま	小走りに成人式の輪の中へ	ひ か り	風光る大池嶺々をパノラマに
狸	豆	ジョギングの足裏にやさし春堤	智恵子	酒蔵に甘き匂ひや寒仕込み
		二〇一七年一月一四日	やよい	鈍色の湖へ棹さす蜆舟
天	満	風花とともに飛び乗る電車かな		二〇一七年一月一八日
虎	宏	寒月をあげて山嶺鎮まれり	智恵子	何一つ動く影なき雪野原
いじ	t	上向きのヘッドライトに雪しまく	なおこ	左義長の火を煽らんと太鼓打つ
		二〇一七年一月一五日	なおこ	空を突く子らの拳や寒稽古
つき	なっ	初雪のお団子つくる幼き手	は く 子	池四温水鳥あまた犇めきて
かり	ひ	海光の水仙郷にかほり満つ	菜々	縁小春野良猫いつかうちの猫
おこ	なか	母と娘の頬よせあひて初写真	豆狸	家々の犬に声かけ初散歩
ゆ	ま	深呼吸して書き初めの筆下ろす		二〇一七年一月一九日
つき	さっ	校庭にをどるどんどの影法師	豆狸	愛犬のぴくつくひげに風花す
		二〇一七年一月一六日	こすもす	朱の欄の斑に現れし雪解かな
つき	ਰ ਰ	ひよんの笛風の鳴き声にも似たり	菜々	波がしら一つ一つに風光る
恵子	智	月冴ゆる山路草木の影法師	明日香	ほつほつと梅ひらき初む厨窓
つ ぎ	うっ	次々と子らに抜かるる深雪道		二〇一七年一月二〇日